

花咲き山

令和3年度
飯豊町立飯豊中学校
第2学年だより
第50号
2022.3.11
文責：小松正義

気持ちのキャッチボールを

今、子ども達は卒業式に向けて「祝福する活動と生活向上運動」を並行して行っています。私が担当している年自治会では「あいさつ運動」を展開しています。長くなりますが、子ども達の葛藤を紹介します。

自治会メンバーの思いは、

「あいさつが大事なのは、みんなわかっていると思うけど、あいさつを返してくれない人がいたり、目を見て（あいさつを）してくれなかったり、まだまだだと思う。」

というところがありました。活動を展開する中でも、

「返してくれない人がいる。」「目を見てくれない。」

という反省が多く出てきました。でも、自治会メンバーは、

「私たちが、固まって声がけ（あいさつ）しているから返しづらいのでは。」

「呼びかけの仕方を工夫しないといけないのでは。」

と、自分たちの行動を変えることで仲間に伝えようとする姿がありました。「いいぞ。」私はそんな思いで自治会のメンバーを見ていました。そしてもう一度、なんで「あいさつ運動」だったのかを再考させてみたのです。そうしたら、

「誰とでも、気軽にあいさつを交わせる、一対一で自然にあいさつできるような学年にしたい。」

「あいさつは、コミュニケーションだと思う。みんなとコミュニケーションできると良いな。」

と目指す姿が、はっきりしてきました。また話し合いの中で、

「自分では、取り組みを成功させるために、明るく教室にあいさつしながら入っていったら、笑われて、しかもあいさつ返ってこなくて、悔しかったし、悲しかった。」

という発言もありました。

「こういう目的や自治会の気持ちをクラスにしっかり伝えたの？」「『あいさつ運動するので、協力してください。』だけになっていない？しっかり伝えることから始めよう。」と私。

「いや。そういう説明まではしていない。」「言っても反応してくれないから。」

など、弱気な発言も・・・。

「まずは、誰かが苦しい思いや、嫌な気持ちをしっかり訴えないと変わらないよ。」

「俺、言います。」（心温さん）

「勇気いるけど大丈夫？」「大丈夫です。」

2組では、心温さんが自分が体験した悔しい思いを、クラスに訴えました。みんな真剣に聴いてくれたそうです。担任からも、「仲間に、こんな思いをさせるクラスで良いのか？」という後押しがありました。同じ頃1組では、愛莉さんが、「誰とでも、意識せず、自然にあいさつできる学年にしていきたい。」と話しかけていました。

年度末の取り組みで、リーダーの思いをしっかりと伝えるキャッチボールは始まったばかりですが、みんなが理想を目指して、自分の考えや思いをしっかりと伝え合える学年にしていきたいと思います。

自治会のメンバーは、どの委員会も取り組みを行っているので、それぞれのリーダーが苦労していることがあることも理解していました。各委員会の取り組みには、フォロワーとして協力することの大切さも確認して話し合いを終えました。

2年生の「やさしさ」をさらに大きく開花させるために今必要なことは、リーダーの本気度とそれを受けとるフォロワーの力だと思っています。思いをしっかりと伝え、残りの期間で多くの成果が出せるよう見守っていきます。

進路学習会・立志式について

明日、12日（土）予定通り開催します。

時間：～8：50 受付

9：00 開会行事

持ち物：内履き（スリッパ等）・筆記用具・防寒着

生徒はタブレット（しっかり充電して）と総合学習の青い板も

お忙しい中ですが、ご協力よろしくお願い致します。

生徒は制服登校